



横須賀の歩んだ昭和

文／亀井泰治（横須賀市自然・人文博物館）

第2回 市域の変遷 ～大軍港都市横須賀の建設～

1865年の横須賀製鉄所建設を機に、横須賀の市街地形成がはじまります。明治元年の頃の横須賀村は、およそ206戸の集落でした。明治9年に横須賀村が横須賀町に改称し、明治11年の郡区町村編成法施工時の横須賀町は、元町、諏訪町、旭町、稲岡町、楠ヶ浦町、山王町、坂本町、若松町、泊里町、汐入町、汐留町、汐留新道、谷町、湊町、大滝町の15カ所に区分されていました。

明治17年に従来の戸長役場が廃され、新たな所管区域と総合戸長役場が設置されました。この時に、横須賀町と逸見村が統合され、戸長役場が元町に置かれました。明治22年に市町村制施行が実施され、横須賀町と逸見村総合役場の区域を合わせて横須賀町になりました。

明治39年に横須賀町と豊島町が合併し、明治40年2月15日、市制を施行し横須賀市が誕生しました。今の横須賀下町地域と坂本、逸見、上町などが市域となり、田浦、衣笠、久里浜及び浦賀は違う行政区でした。市政施行時の横須賀は、現在のヨゼフ病院あたりに木造2階建ての市庁舎を構えていました。市政のさまざまな調査が行われ、大正2年の調査時では市の人口が全国21位でした。

関東大震災を挟んで都市計画法施行の検討が行われ、大正12年10月、震災復興には都市計画の指定が不可欠であると市長は神奈川県に「都市計画地域には隣接四ヶ町村(田浦町、衣笠村、久里浜村、浦賀町)を包含すべき」と上申しています。そして、昭和3年都市計画法指定を受け、昭和4年に隣接4カ町村を含み都市計画区域に指定されました。

昭和7年に大横須賀建設準備委員会が設置され、大軍港の建設に一步踏み出します。対象となった町村は田浦町、衣笠村、久里浜村、浦賀町でした。その理由について、「地勢人情及風俗」が等しい状態であり「既定の都市計画区域」にあることがあげられています。

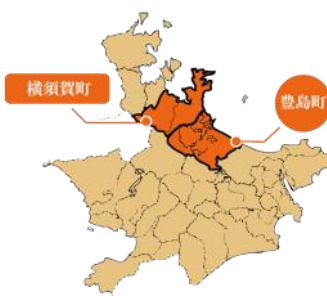
最初に合併の合意形成ができたのは衣笠村でした「横須賀市都市計画区域内に属し地勢交通産業経済の利害が同じ」という理由により、昭和8年2月10日に合併が成立しました。田浦町とは大正6年2月に横須賀市田浦町合併協議会が開催され、海軍からの「二つの行政機関に通告協議するのは煩雑である」旨の要請があり、昭和8年4月1日に合併が成立しました。昭和8年4月3日には、衣笠村と田浦町を合併した盛大な祝賀会が開催されました。久里浜村については住民に海軍工廠の浦賀船渠株の職員も多い一方で、財政的に厳しい横須賀市と合併すると久里浜村の負担が増えるなどの意見もありましたが、昭和12年4月1日に

合併しました。しかし、浦賀町については先送りとなります。当時の浦賀町は、浦賀船渠株の工場を中心にした企業城下町で、江戸期からの町の発展の歴史があり、浦賀町民の意識として、横須賀市と合併するメリットが少なくその必要はないという判断であったようです。

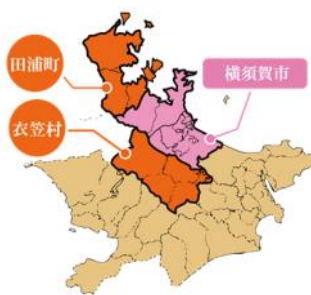
昭和16年にアジア・太平洋戦争がはじまり、軍部から市政への要請が多くなります。昭和17年国防的見地から隣接当村の合併を海軍当局から要望された横須賀市は「世界最大の軍港都市の実現」を目指し協議を進めます。そして、戦時下の昭和18年4月に、浦賀町、逗子町、大楠町、長井町、武山村、北下浦村の合併が実現しました。終戦後、昭和25年に逗子町は分離し、現在の横須賀市域となりました。



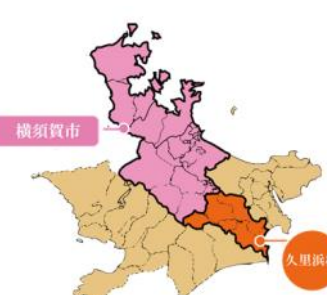
明治22年 逸見村合併



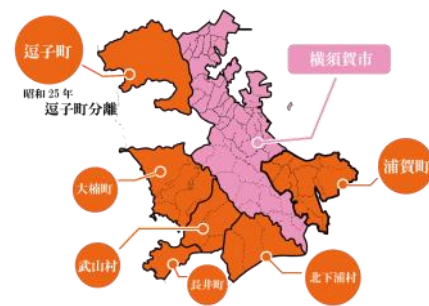
明治40年 豊島町合併
横須賀市誕生



昭和8年 田浦町、
衣笠村合併



昭和12年 久里浜村合併



昭和18年
浦賀町、逗子町、
大楠町、長井町、
武山村、北下浦村
合併